

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/図/表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
岩本					(3) 式により真空誘電率の値 (8.854 187 817×10 ⁻¹² F・m ⁻¹) が示されている。この値は、例えば、国際単位系における値 (8.854 187 8188(14)×10 ⁻¹² F m ⁻¹) とは異なる。この値を示すならば、出典を示した方がよい。なお、JIS C2139-1 :2019 に示されている値は 8.854×10 ⁻¹² F m ⁻¹ であることから、この JIS 規格 C2139-2-1 制定でも値を統一しておいた方がよい。		真空誘電率の値 (8.854 187 817×10 ⁻¹² F・m ⁻¹) は CODATA の 2016 版の値ですが、2018 年にご指摘のように 8.854 187 8188(14)×10 ⁻¹² F m ⁻¹ に修正されています。物理定数の 8 桁以下の数値は将来的に変わる可能性もあり、この規格で小数点以下 4 桁以下の値にこだわっても意味はないので、ご提案頂いたように、C2139-1 :2019 に示されている値は 8.854×10 ⁻¹² F m ⁻¹ であることから、この JIS 規格も C2139-2-1 制定の値に統一します。 (附属書 JC にも、上記を記載し、「対応国際規格の改訂時に提案する」と記載します。)
加藤	70	箇条 3			C2139-2-2 には真空誘電率 ε ₀ の定義があるが、この規格には不要か？	必要に応じて、真空誘電率の定義を追加	2-2 と同様の真空誘電率の定義を追加します。
加藤	151	4.1	注意		C2139-2-2 の 153 行目に合わせて、通常の本文にしてはどうか	“注意”を削除	ご指摘のとおり、“注意”を削除します。
加藤	168	4.3.1	第 1 段落 2 文目		要求事項なのか、説明事項なのかどちらか？ (説明事項であれば、どこで記載しなければならないとしているのかの情報が必要では？)	記載しなければならないとされている。 → 記載しなければならない。	“must be” の訳を“記載しなければならない”に修正します。 点下線を付け、対比表に記載します。
加藤	196	4.3.2.3	第 4 段落		説明なのか、要求なのか判らないので、要求であ	材料に適したものであり、	文意の明確化のため、ご指

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
			最終行		れば分かる表現にする	→ 材料に適したものとし、	箇の箇所について、“測定装置の精度は、試験片材料に適切な精度とし、試験報告書に記載しなければならぬ。”に修正します。 (精度はものでないので、「ものとする」という表現を避けて、上記のような表現にしました。)
加藤	329	4.5.4	項目名		330 行目に出てくる言葉に合わせる (C2139-2-2 の 4.6.3 は「試験片の数」)	試験片の <u>個</u> 数 → 試験片の数	ご指摘のとおり、“試験片の数”に変更します。
加藤	345	5.2.1	第 1 段落		比誘電率を求める旨の表記が重複している。簡潔に記載してはどうか	試験片の比誘電率 ϵ_r は、式(12)に従って算出する。試験片の静電容量 C_x を測定し、その測定値から比誘電率 ϵ_r は、次の式から求める。 → 試験片の静電容量 C_x を測定し、その測定値から比誘電率 ϵ_r は、次の式(12)から求める。	ご指摘の箇所について、“試験片の静電容量 C_x を測定し、その測定値から次の式(12)を用いて比誘電率 ϵ_r を求める。”に修正します。
加藤	358 359 365 369	箇条 6	b) c) i) m)		本文中に点線下線が引いてあるが、対比表に記載がない。意識なら点線下線不要では。差異なら対比表に記載が必要では	下線をとる 又は 対比表に差異の内容を記載	明確化のための記載の追加として、対比表に記載します。
加藤	371	箇条 6	o)		「平均値」に「誘電率及び誘電正接」に係るなら、「並びに」ではなく、「及び」(たすき掛け) 「誘電率及び誘電正接の個々の値」と「平均値」なら、そのまま	誘電率及び誘電正接の個々の値 <u>並びに</u> 平均値 → 誘電率及び誘電正接の個々の値 <u>及び</u> 平均値	“誘電率及び誘電正接の個々の値、 <u>並びに</u> 誘電率及び誘電正接の個々の値の平均値”に修正します。 明確化のために、たすき掛けをほどいた記載としました。
加藤	432	JA.2.1	第 2 段落			C1 は可変である <u>る</u> 、また、R1 及び → C1 は可変であり、また、R1 及び	“C1 は可変である。また、”に修正しました。

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/図/表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
						又は C1 は可変である。また, R1 及び	
加藤	468 472 478	JA.2.2.3	第 1 段落 1、5 行目 第 2 段落 1 行目		「JA.2.2.1 に記載した誤差」とは 451-452 行目の「容量性比例辺と測定用比例辺とのインピーダンスの差は、桁違いに大きくなるため、電圧配分にも同程度の違いが生じる」のことか？ JA.2.2.2 の 466 行目に「 $\tan \delta$ の測定誤差」という表現があるので、「誤差」以外の言葉を用いるか、JA.2.2.1 にも「誤差」という言葉を用いて、何を示しているか明確にする	誤差の解消方法 → ?	ご指摘にしたがって、JA.2.2.1 にも「誤差」という言葉を用いて、何を示しているか明確にしました。 452 と 453 の間、下記の下線部分を挿入。“・・・違いに大きくなるため、電圧配分にも同程度の違いが生じる。 <u>このことが原因となって測定値に誤差が生じる可能性がある。</u> 電圧の最大値は、・・・”
加藤	629	附属書 JC	5.2.1 d)		面積の単位は m ではない	面積, 厚さの単位を m → 面積の単位を m ² , 厚さの単位を m	ご指摘にしたがって、修正いたします。
西原	147	4.1	図 2	ed	掲載図名の表示があった方が、素人には分かりやすい	上の図に等価直列回路、下の図に等価並列回路	C2139-2-2 の図 2 と同様に、次の記号説明を追加して、上下の図が、それぞれ、等価直列回路及び等価並列回路であることを示しました。 <u>C_s、R_s : それぞれ等価直列回路における静電容量及び抵抗</u> <u>C_p、R_p : それぞれ等価並列回路における静電容量及び抵抗</u>
事務局				ed	真空誘電率の量記号「 ϵ_0 」の「 ϵ 」の字体は斜体に修正する。		—

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/図/表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
岩本					(3) 式により真空誘電率の値 (8.854 187 817×10 ⁻¹² F・m ⁻¹) が示されている。この値は、例えば、国際単位系における値 (8.854 187 8188(14)×10 ⁻¹² F m ⁻¹) とは異なる。この値を示すならば、出典を示した方がよい。なお、JIS C2139-1 :2019 に示されている値は 8.854×10 ⁻¹² F m ⁻¹ であることから、この JIS 規格 C2139-2-2 制定でも値を統一しておいた方がよい。		真空誘電率の値 (8.854 187 817×10 ⁻¹² F・m ⁻¹) は CODATA の 2016 版の値ですが、2018 年にご指摘のように 8.854 187 8188(14)×10 ⁻¹² F m ⁻¹ に修正されています。物理定数の 8 桁以下の数値は将来的に変わる可能性もあり、この規格で小数点以下 4 桁以下の値にこだわっても意味はないので、ご提案頂いたように、C2139-1 :2019 に示されている値は 8.854×10 ⁻¹² F m ⁻¹ であることから、この JIS 規格も C2139-2-1 制定の値に統一します。 (附属書 JA にも、上記を記載し、「対応国際規格の改訂時に提案する」と記載します。)
加藤	87	3.5			ϵ_r ではなく ϵ では (ϵ_r は比誘電率)	誘電率 ϵ_r の比 → 誘電率 ϵ の比	ご指摘のとおり、「誘電率 ϵ の比」に修正します。
加藤	187	4.3	第 4 段落		C2139-2-1 には望ましい電圧値以外で測定した場合の記載 (161-162 行目) があるが、不要か?	「望ましい電圧値以外の電圧値で測定したときは、その電圧値を試験報告書に記載しなければならない。」を追加する	ご指摘のとおり、「 <u>望ましい電圧値以外の電圧値で測定したときは、その電圧値を試験報告書に記載しなければならない。</u> 」を追加します。 (対比表に追加します。)
加藤	242	4.4.3	第 1 段落		C2139-2-1 の 4.3.2.1 のように要求事項としなく	三つのグループに分類可能である。	ご指摘のように、-2-1 と同

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
					てよいか?	→ 次による。ただし、これらの3種類に限定しない。	様の記載に修正します。 (対比表に追加します)
加藤	245 250	4.4.3	c) 第3段落		同じものなのか、違うものなのか明確にする。違うものなら、第3段落でインピーダンスアナライザ法に触れる必要はない。	c) I-V 法 (インピーダンスアナライザ法) 又は 250 行目からインピーダンスアナライザ法に関する記述を削除	c) I-V 法の後に“(インピーダンスアナライザ法)”を追加します。
加藤	252	4.4.3	第4段落		「測定装置を」と「測定では」に下線があるが、対比表に記載がない。意識の範囲なら、下線不要。意識を超えるレベルなら、対比表に記載。	「測定装置を」と「測定では」の下線削除 又は 対比表に差異を記載	ご指摘にしたがって、点下線の強調を外します。
加藤	275	4.6.3	1 文目		C2139-2-1 の 4.5.4 (330 行目) とどちらかに合わせてはどうか	規定する。 → 規定しなければならない。	-2-1 の表現に揃えます。 すなわち、「規定しなければならない」に修正します。
加藤	275-276	4.6.3	2 文目		C2139-2-1 の 4.5.4 (330-331 行目) とどちらかに合わせてはどうか	試験片の数の規定がない場合は、三つ以上の試験片で試験を行う。 → 関連する製品規格に規定がない場合には、3 個以上の試験片を用いる。	この規格では、個数は漢字を使用して「三つ」とします。 -2-1 の表記を修正します。
加藤	278	4.6.4	1 文目		C2139-2-1 の 4.5.5 (333 行目) とどちらかに合わせてはどうか	試験片の状態調節及び前処理は、関係する製品規格に従って行う。 → 関連する製品規格に従って、試験片の状態調節及び前処理を行う。	-2-1 の 4.5.5 の記述に揃えて、“関連する製品規格に従って、試験片の状態調節及び前処理を行う。”に修正します。
加藤	278	4.6.4	2 文目		C2139-2-1 の 4.5.5 (333 行目) とどちらかに合わせてはどうか	製品規格がない場合は → 製品規格に規定がない場合は	ご指摘のように、“製品規格に規定がない場合は”に修正します。
加藤	280	4.7	項目名		C2139-2-1 の 4.6 (335 行目) とどちらかに合わせてはどうか (内容は全く同じ)	特定の材料での測定方法 → 特定の材料の処理	-2-1 の 4.6 を、「特定の材料での測定方法」に修正します。
加藤	258	5.1			対比表では、IEC 62631-2-1 の 5.1 (C2139-2-1)	4.6 による	高周波数領域特有の注意事項

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
					より正確な 4.6 を引用したとあるが、C2139-2-1 の 5.1 に記載されている「試験片の厚さは、電極に装着する前に 5 か所以上を測定することが望ましい。試験片の厚さ及び電極の寸法は、±1% の精度で測定する。」に関する部分が、4.6 に記載されていないと思われるが、この規格の 4.6 に置き換えてよいか？	→ JIS C 2139-2-1 の 5.1 (一般的事項) による	項が 4.6 に記載されているため、“4.6 による” はそのままにします。 そのかわり 4.6 の 266 行目に以下の文を追加します。 「なお、試験片の厚さを測定する場合は、電極に装着する前に 5 か所以上を測定することが望ましい。試験片の厚さ及び電極の寸法は、±1% の精度で測定する。」 (対比表に追加します)
加藤	302 303 309 313	箇条 6	b) c) i) m)		本文中に点線下線が引いてあるが、対比表に記載がない。意識なら点線下線不要では。差異なら対比表に記載が必要では	下線をとる 又は 対比表に差異の内容を記載	明確化のための記載の追加として、対比表に記載します。
加藤	315	箇条 6	o)		「平均値」に「誘電率及び誘電正接」に係るなら、「並びに」ではなく、「及び」(たすき掛け) 「誘電率及び誘電正接の個々の値」と「平均値」なら、そのまま	誘電率及び誘電正接の個々の値並びに平均値 → 誘電率及び誘電正接の個々の値及び平均値	-2-1 の 371 行目に関するご指摘に対する対応と同様に、 “誘電率及び誘電正接の個々の値、並びに誘電率及び誘電正接の個々の値の平均値” に修正します。
加藤	372 380 382 ほか	C.1 ほか	第 3 段落 第 5 段落 b) 第 6 段落		意識の範囲内と思われるので、下線は不要では	式(C.1)及び式(C.2) → 式(C.1)及び式(C.2) 式(C.3) → 式(C.3) 式(C.4) → 式(C.4)	ご指摘にしたがって、点下線の強調を外します。

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
加藤	400	C.2	第 2 段落 1 行目		意識の範囲内と思われるので、Uin、lin の下線不要では		ご指摘にしたがって、点下線の強調を外します。
加藤	455	附属書 D	第 4 段落 2 行目		この箇所の説明は図 D.1 a)のものなので、 δ ではなく、 $\delta 1$ では？	$\tan \delta \rightarrow \tan \delta 1$	ご指摘にしたがって、“tan $\delta 1$ ”に修正します。
西原	246	4.4.3	6 段目		共振法は、10KHz～100MHz の範囲で有効と記載されています、 256 行目表 1 内では、共振回路⇒共振法⇒有効な周波数領域 10KHz～300MHz となっていますが、10KHz～100MHz と整合性が取れていない気がするのですが、良いのでしょうか。		共振法は、247 行に書かれているように、“非接触電極”を用いると 300MHz まで測定可能です。 そのことを明確にするため、表 1 の「共振回路の有効な周波数領域」に次の注 ^{a)} を追加します。このため、現在の注 ^{a)} は注 ^{b)} に変更します。 <u>注^{a)}.....非接触電極とともに用いると 300 MHz 近くの周波数まで測定が可能となる。</u>
事務局				ed	真空誘電率の量記号「 ϵ_0 」の「 ϵ 」及び光速の量記号「 c_0 」の「 c 」の字体は斜体に修正する。		—

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
加藤	457-461	4.4.4.3	第 2 段落 下から 4 つ の細別		457 行目に「次のものは」とあるが、この次とは 459～461 行目のことを示しているのか？ 示しているなら、459～461 行目のインデントを 457 行目の細別の下に細別と分かるように調整する。違うものを示しているなら、次が何か判るように記載する。		つぎのとおり、修正します。 459～461 行目のインデントを 457 行目の細別の下に細別と分かるように調整します。
加藤	543-544	4.6.2	2～3 行目		三つ目の「又は」が一番大きな括りなら、手前の「又は」は「若しくは」になる	ドレン又は弁閉鎖によって蒸気又は水の系外への流出、又はバイパス流れを防ぐ系統遮断 → ドレン若しくは弁閉鎖によって蒸気若しくは水の系外への流出、又はバイパス流れを防ぐ系統遮断	つぎのとおり、修正します。 “ドレン若しくは弁閉鎖によって蒸気若しくは水の系外への流出、又はバイパス流れを防ぐ系統遮断”に修正します。 これに合わせて、次の単語を修正いたします。 閉鎖⇒閉止（4カ所）
加藤	576	4.8.2	表 1 注 d)		表中の添え字 d)は追加された右欄にしかない。注 d)も追加されたものなら、点線下線が必要ではないか	注 d)に点線下線を引く	つぎのとおり、修正します。 ⇒ 注 d)の全体に点線下線を引きます。
加藤	1256	5.4.8.2	1 行目			圧力取出口と計器の中心線間の水頭 → 圧力取出口と計器の中心線との間の水頭	次のとおり、修正します。 “圧力取出口と計器の中心線との水頭”
加藤	1630 1646 1653 1657	6.2.5A 6.2.5B 6.2.5C 6.2.5D			6.2.5 の下の細分箇条を意図するのなら、6.2.5.0A～6.2.5.0G になるのでは（6.2.5A では 6.2.5 と同一階層の細分箇条とな	6.2.5A → 6.2.5_0A 6.2.5B → 6.2.5_0B 6.2.5C → 6.2.5_0C 6.2.5D → 6.2.5_0D	拝承いたします。

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/図/表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
	1668 1689 1696 1691 1697 1699	6.2.5E 6.2.5F 6.2.5G			る)	6.2.5E → 6.2.5 <u>0</u> E 6.2.5F → 6.2.5 <u>0</u> F 6.2.5G → 6.2.5 <u>0</u> G	
加藤	1715	7.2	第 3 段落		文頭に「又は」を用いない	文頭の「又は」削除	つぎのとおり, 修正します。 文頭の「又は」を削除します。
加藤	1827- 1829	7.7.2 b)			1823~1825 行目と内容が重複している箇所を削除	b) 主蒸気加減弁の弁開度を所定の値に保った運転が考えられ, 各々の…条件に従う。 → b) 主蒸気加減弁の弁開度を所定の値に保った運転	つぎのとおり, 修正します。 “b) 主蒸気加減弁の弁開度を所定の値に保った運転”
加藤	1834- 1850	7.7.3			対比表には変更した旨の記載があるが、本文中に下線がない	対比表に記載の該当箇所に点線下線又は側線を引く	つぎのとおり, 修正します。 1836 から 1850 まで側線を引きます。
加藤	1988	8.2.3 b)1)			対比表 8.2.3 の 4 番目・変更の内容に該当する箇所 (対応国際規格の B) iii)において…) が、本文中のこの下線の箇所で正しいか?	1) hi と hj との間…	つぎのとおり, 修正します。 1997 から 1998 の「 V_{hj} の計算においては, $V_T=0$ とする。」に下線を引きます。
加藤	2084	8.5.2 式(50)			対比表の 8.5.2 に記載があるが、側線等は不要か?		つぎのとおり, 修正します。 式 (50) 下段に下線を引きます。
加藤	2086	8.5.2 式(51)			対比表の 8.5.2 に記載があるが、側線等は不要か?		つぎのとおり, 修正します。

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
							式 (5 1) 下段に下線を引きます。
加藤	2113	8.5.5	表 6		項目名欄に「結果」とあるが、それでよいか？ (記載されているのは、効率と出力)	結果 → ？	IEC は「結果」ですが、文書の整合を考慮して「記号」に修正いたします。
加藤	2114 2115 2121 2124 2137	箇条 9 9.1 9.2 9.3 9.4			対応国際規格にない箇条番号なら、9 ではないのでは	9 → 8A 9.1 → 8A.1 9.2 → 8A.2 9.3 → 8A.3 9.4 → 8A.4	拝承します。
加藤	2154	A.2			「望ましい」とあるが、推奨でよいか？ (記載以外の方法でも許容することになる)	いずれかが望ましい → いずれかによる	つぎのとおり、修正します。 給水加熱器の漏れ試験は、次に示す方法のいずれかが望ましい。 → “給水加熱器の漏れ試験方法の一例を記載する。”
加藤	2165	A.3			「望ましい」とあるが、推奨でよいか？ (記載以外の方法でも許容することになる)	方法が望ましい → 方法による	つぎのとおり、修正します。 復水器の漏れ試験は、次に示す方法が望ましい。 → 復水器の漏れ試験方法の一例を記載する。
加藤	2193	B.2	第 3 段落		分かりづらい	調査する → 調査すべき、調査しなければならない など	つぎのとおり、修正します。

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
							<p>次の条件が成り立てば、該当する \bar{x}_i は、恐らく許容できない方法による不確かさのために真の値からずれていることを表している。</p> <p>$\epsilon_i < 0$</p> <p>これは、バランス上の気づかない系統誤差について、測定値 \bar{x}_i 及びその不確かさ $V_{\bar{x}_i}$ を調査するという注意信号である。</p> <p>→</p> <p>次式が成り立つ場合は、許容できない系統誤差によって、測定値 \bar{x}_i が真値からずれていることを表している。この場合、測定値 \bar{x}_i 及びその測定の不確かさ $V_{\bar{x}_i}$ だけでなく、その他要因を調査しなければならない。</p> <p>$\epsilon_i < 0$</p>
加藤	2407	表 E.1			中圧 2 入口蒸気・圧力の試験 1 欄 誤記 (小数点が二つ)	1.8 _. 124 → 1.8124	つぎのとおり、修正します。 → 1.8124
加藤	2543	表 JE.1	m の欄		質量終了で正しい?	質量終了 → 質量流量	つぎのとおり、修正します。 →

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
							質量流量 これに合わせて表 JE.1 の欄内を次の通り修正いたします。 系統的⇒系統 ランダム⇒偶発
加藤	2582	附属書 JF	4.8.2 の欄		表 1 の右欄についての記載があるが、それ以外の点線下線が引いてある箇所については対比表に記載がない。記載は不要か？	記載の必要があれば、対比表に追加する	対比表は次の通り修正いたします。 ⇒ c)欄については、「変更」から「変更・追加」とします。 d)欄については、次の通りとします。 ・国内の技術レベル及び運用状況を考慮して、次の変数について変更・追加した。 <変更> 主蒸気温度, 排気圧力 (給水加熱用, 復水タービン用), 再熱蒸気温度, 回転速度, 冷却水流量, 冷却水入口温度 <追加> 力率, 電圧 ・利便性を考慮して、表 1 の右欄“試験中におけるその平均値からの最大許容変動”を追加した。

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
							・技術的差異はない。
加藤	2582	附属書 JF	8.2.3 の 1 番目の d) 欄		DIN 規格に追加したように読める	DIN 規格に図 10 に記載されている → DIN 規格の図 10 に記載されている	つぎのとおり、修正します。 → DIN 規格の図 10 に記載されている
加藤	2582	附属書 JF	附属書 A の欄		A.2 に点線下線が引かれているが、対比表に記載がない。記載不要か？		対比表は次の通り修正いたします。 → 分かりやすくするために、箇条 A.1 “一般” を追加した。また、漏れ試験方法についても分かりやすくするため、次に示す方法のいずれかが望ましい。” を追加した。 ・技術的差異はない。
加藤	2582	附属書 JF	附属書 B の c) d) 欄		附属書 A や附属書 C と同様の変更と思われる (B.1 と B.2 に分けたとあるが、B.1 全体に下線が引かれており、追加されたのではないのか？ 分けただけなら、B.1 の内容 (2181 行目) の点線下線は不要では)	c) 欄 変更 → 追加 d) 欄 分かりやすさのため、B.1 及び B.2 に分けた。 → 分かりやすくするために、B.1 “一般” を追加した。	対比表は次の通り修正いたします。 → c) 欄 変更 → 追加 d) 欄 分かりやすくするために、B.1 “一般” を追加した。
加藤	2582	附属書 JF	附属書 D の c) d) 欄		附属書 A や附属書 C と同様の変更と思われる (D.1 と D.2 に分けたとあるが、D.1 全体に下線が引かれており、追加されたのではないのか？ 分	c) 欄 変更 → 追加 d) 欄	対比表は次の通り修正いたします。

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/図/表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
					けただけなら、D.1 の内容 (2257-2258 行目) の点線下線は不要では)	分かりやすさのため、D.1及びD.2に分けた。 → 分かりやすくするために、D.1 “一般” を追加した。	→ c)欄 変更 → 追加 d)欄 分かりやすくするために、 D.1 “一般” を追加した。
西原	592,595, 596	4.8.4			本文では、「積算計」と記載されていますが、JIS B 8102:2012 では、「積算計器」としていると思います。変更した理由はありますか。		JIS B 8102:2012 では「積算計器」を含め、同義的な計器として「積算計」「積算型計器」「積算計数器」を使用しているが、それぞれに違いはなく、また使い分ける必要もないため、実態と照らし合わせた表現として「積算計」に統一しました。
西原	1236, 1237	5.4.6			測定圧力の±0.1%⇒JIS B 8102:2012 では、±0.2%、重要でないもの±0.3%⇒JIS B 8102:2012 では、±0.5%になっていると思いますが、この変更は、国際規格との整合性など何か理由がありますか。		対応国際規格との整合性により、測定圧力の±0.1%、重要でないもの±0.3%に見直しております。
本吉	1385	5.6.7 e)		ge	今回の改正点で水銀に関する記載を削除しているが、水銀温度計の記載が残っているが問題ないか。	e)を削除し f)を e)とする。	つぎのとおり、修正します。 → e)を削除し f)を e)とします。
本吉	1989	8.2.3	式(45)	ge	式(43), (44), (46), (47)には右辺に±があり、右辺に±は不要か。	±をつける	つぎのとおり、修正します。 → ±をつけます

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
本吉	1996	8.2.3	式(47)	ge	改正前の式(38)には VTi があるが、今回の式からはなくなっているが問題ないか。		対応国際規格と合わせ、VTi を削除しております。
本吉	2000	8.2.3	図 10	ge	1998 行目に影響係数 A(s)は比エントロピー (s) の関数でありと記載されているが、横軸は比エントロピー (s) ではないか。	横軸を比エントロピー (s) とする	つぎのとおり、修正します。 ➡ 本文同様、比エントロピー (s) に訂正します。
本吉	2113	8.5.5	表 6	ge	試験結果に対する測定の不確かさ (相対値) の数値に単位がないが補記部分から%ではないか。	単位を記載する	つぎのとおり、修正します。 ➡ 単位を相対%とします。

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
加藤	134 135	3.3A 3.3.1			3.3 と 3.3.1 の間にタイトル項目を設けたいのなら、3.3.0A とするか、細分箇条番号を設けず、文章だけにした方が無難では？ そうでない場合、3.3.1 以降が 3.3A.1 となるのでは	3.3A → 3.3.0A 若しくは → 用語及び定義は 3.3.1～3.3.11A による。(細分箇条番号を記載せず、通常文章を追加する。) 又は 3.3.1 → 3.3A.1	拝承いたします → 3.3A → 3.3.0A に修正します。
加藤	218	3.5.2	式(1)		図 1 で記載されていない h_{in} 、 h_{out} が式中に用いられているが、これでよい？ (246 行目の式(5)も式(1)と全く同じ式だが、参照している図 2 では h_{in} 、 h_{out} の両方とも記載がある)		つぎのとおり、修正します。 → 図 1 に h_{in} 、 h_{out} を図示します。 それぞれの位置は、 h_{in} 、 : Pin ポイントを指す h_{out} : 出口ポイントを指す
加藤	532+1 571	5.3.8.10A			B8105 の JIS 案にはないが、B8102 には 5.3.8.10A (系外への送気蒸気流量) がデビエーションとして追加されている。B8105 に追加する必要はないか？	必要であれば、細分箇条 5.3.8.10A を追加する	つぎのとおり、修正します。 → 細分箇条 5.3.8.10A を追加する。
加藤	767	6.2.5.2	式(12)、 式(13)		式(12)及び式(13)で用いられている Δh_s の説明は不要か？	必要であれば、 Δh_s の説明を追加する	つぎのとおり、修正 (追記) します。 → 式 (1) にて、 ここで、 Δh_s : 車室入口から出口の比エンタルピー落差

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/図/表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
加藤	1290	G.3.3	第 3 段落		1311-1312 行目で図 G.16 は「提供してもよい」ものの例としているので、確実に提出しなければならないのは、図 G.15 までではないか？	図 G.9~図 G.16 → 図 G.9~図 G.15	つぎのとおり、修正します。 → 製造業者は、図 G.9~図 G.15 の熱消費率修正曲線を提出する。
加藤	1507	附属書 JA	3.1 a)欄		対応国際規格の 3.1・3.2 の一部を表 0A にまとめたのなら、この規格の 3.1 は直接関係ないのでは	a)欄から「3.1」を削除	つぎのとおり、修正します。 → a)欄 b)欄から「3.1」を削除します。
加藤	1507	附属書 JA	3.5.2A b)欄		d)欄によると、元々対応国際規格の 3.5.3 に記載されているもののようなので、a)欄に 3.5.3 の追加記載、b)欄に 3.5.3 の記載が必要では それに伴い c)欄は変更となるのか？	a)欄 3.5.2A → 3.5.2A 3.5.3 b)欄 “-” → 3.5.3 c)欄 追加 → 変更	つぎのとおり、修正します。 → a)欄 3.5.2A → 3.5.2A 3.5.3 b)欄 “-” → 3.5.3 c)欄 追加 → 変更
加藤	1507	附属書 JA	附属書 B の c)d)欄		C8102 と同様な構成であれば、B.1 と B.2 に分けたとあるが、追加されたのではないのか？その場合は、附属書 A や附属書 C と同様の変更と思われる	c)欄 変更 → 追加 d)欄 分かりやすさのため、B.1及びB.2に分けた。 → 分かりやすくするために、B.1 “一般” を追加した。	つぎのとおり、修正します。 → c)欄 変更 → 追加 d)欄 分かりやすくするために、B.1 “一般” を追加した。
加藤	1507	附属書 JA	附属書 D の		C8102 と同様な構成であれば、D.1 と D.2 に分けたとあるが、追加されたのではないのか？その場	c)欄 変更 → 追加	つぎのとおり、修正しま

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
			c)d)欄		合は、附属書 A や附属書 C と同様の変更と思われる	d)欄 分かりやすさのため、D.1及びD.2に分けた。 → 分かりやすくするために、D.1 “一般” を追加した。	す。 → c)欄 変更 → 追加 d)欄 分かりやすくするために、 D.1 “一般” を追加した。
西原	385	4.10.1	10 及び 11 段目	ed	「プラントの購入者は、プラント全体の性能を保証することを好むかもしれないが、製造業者は、個々の構成要素を保証することを好むかもしれないので、」 「好む」の表現	「プラントの購入者は、プラント全体の性能を保証することを望むかもしれないが、製造業者は、個々の構成要素を保証することを望むかもしれないので、」ではどうですか	つぎのとおり、修正します。 → 「プラントの購入者は、プラント全体の性能を保証することを望むかもしれないが、製造業者は、個々の構成要素を保証することを望むかもしれないので、」に修正します。
西原	465	5.1.6	8 段目	ed	「校正をいつ行うか（試験の前後）」が分かりにくい	「校正を試験前後のいつ時点で行うか」ではどうですか。意味が合っていればですが。	つぎのとおり、修正します。 → 「校正を試験前後のいつ時点で行うか」に修正します。
本吉	133	3.3	表 0B	ge	表中最下欄の注 a)のコメントには、質量流量及び比エンタルピーに関する注となっているが、比エンタルピーには a)が付記されていない。	表中の「比エンタルピー」に a)を付記する	つぎのとおり、修正します。 → 表中の「比エンタルピー」に a)を付記します。
本吉	394	4.10.1	表 2	ed	注 e), 注 f)のコメントの最後に句点が付いていない	コメントの最後に句点を付ける。	つぎのとおり、修正しま

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
					い。他と合わせる必要はないか。		す。 ➡ コメントの最後に句点を付けます。
本吉	1061	G.2.1		ge	定格出力 500MV となっているが、単位は問題ないか。1099 行の発電機出力は 500 000kW となっているので 500MW ではないか。	500MW とする。	つぎのとおり、修正します。 ➡ 500MW に訂正します。 また、復水器圧力 50hPa を 5kPa に（3カ所）、真空度 1 hPa を 0.1kPa に修正（1カ所）します。

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

第 29 回電気分野産業標準作成委員会_コメント及び回答

日付: 2024/12/19	規格番号: C3002	プロジェクト:
----------------	-------------	---------

委員名*	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条* (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
加藤	168	5.3.7.3			「試験を無効」とあるが、無効になった場合、どうするとかの規定は不要か？		「試験を無効とする。」を「試験を無効とし、試験片を追加して再度試験を行う。」に修正する。

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

*欄 (委員名・箇条/細分箇条、コメントタイプ、コメント) : 必須入力。入力されていないと投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。

コメントテンプレートはいかなる方法でも変更しないでください (例えば、列の削除・追加、セルのマージなど)。変更した場合、投票システム (National Ballots) が適切に作動しません。